

## G7 広島サミットを終えて

八木 巖

5月19日から22日まで開かれたG7首脳会議が終わりました(3月までは日本が議長国)。ゼレンスキー大統領の登場などで、広島サミットが「高評価」され、岸田首相への支持率が上がったとの報道がなされました。

もともとG7は正統性がないただのグループ=Gに過ぎません。民主主義的な手続きの裏付けもありません。旧植民地宗主国グループであり、今も米、英、仏など海外基地を持ち、軍隊を駐留しているし、「南」の国々に政治的な関与をしています。今日の貧困などの諸課題の多くはこの「先進国」がつくりだしてきました。このことでずっと批判がなされており、2022年エルマウサミットでは数千人によるサミット反対行動もとりにまわっています。

その上近年、G7は、先進国共通の利益のため、中ロへの対決姿勢を強く打ちだし、分断とブロック化をすすめてきました。2021年英コーンウォールサミットの首脳宣言で「台湾海峡の平和と安定」について明記し、「現状を変更し、緊張を高める一方的な試みに反対する」と表明し、対中国への強硬な姿勢を鮮明にしました。この年、英はクイーンエリザベス空母打撃軍をインド太平洋海域に派遣し、自衛隊などと共同訓練をおこないました。G7諸国はドイツ、イタリアも含めやはり艦船を送り、南シナ海や沖縄周辺で演習を行い、台湾海峡の通過など、中国への挑発も行っています。英は海外に42の基地をもっています。仏も海外領土を持ち、8000人の軍隊が展開されているといわれます。自由、民主主義などと言いながら、軍事力による威嚇をおこなっています。

しかしながら、G7諸国は世界でのGDPシェア率が4割台になってきていると言われ、影響力が大きく低下しています。そのため「グローバルサウス」を取り込み中ロへ対抗するという戦略をとっていて、広島サミットでもインド、韓国、インドネシア、オーストラリア、クック諸島、コモロ、ブラジル、ベトナムを招待している。

日本政府はG7サミットで「軍事的な貢献をする用意がある」という姿勢をアピールするべく広島サミットにむけて準備をしてきました。安保3文書改訂、開発協力大綱の改定などです。これが広島サ

ミットをめぐる状況でした。

市民運動の側は「G7広島サミットを問う市民の集い」などがあり、昨年12月17日にキックオフ集会が開かれ、半年の準備がなされ、「サミットはいらない!! 戦争の正当化に「広島」を利用するな!!」をメインテーマ

に5月13日、14日に集会、デモをおこないました。「軍都・広島」を象徴する旧陸軍被服支廠跡地見学、平和公園周辺ガイドなどの緊急企画も開催されました。

13日の集会では8人の報告者が順にそれぞれのテーマで報告を行い(サミット、沖縄、性暴力・ジェンダー、戦争責任、基地、気候変動、原発など)、各地でのとりくみも報告されました。参加者は200人。14日デモ前の集会では沖縄から高里鈴代さんやフィリピン元下院議員ウォルデン・ペローさんのあいさつ等ありました。平和公園が柵がはりめぐらされ、なかが見えないようになっていました。市内は厳戒体制でしたが、デモ規制はそれほど行われず、平和的になされたという感想です。



集会・デモのスローガンは

- バイデン大統領は原爆無差別大量虐殺を謝罪せよ！
- 岸田首相はアジア侵略・植民地支配を謝罪せよ！
- 核武装国(米英仏印)首脳は広島に来るな！
- G7・NATO軍事同盟は核による脅し(=平和に対する罪)をやめよ！
- 暴力に抵抗しているウクライナとロシアの市民



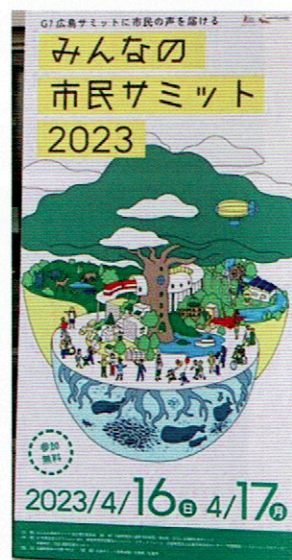
に連帯し、ロシア軍撤退による即時停戦を！

- すべての戦時および日常の性暴力と性搾取を根絶せよ！

この「集い」には不戦へのネットワークも賛同団体になりました。

一方、世界の市民社会グループのC7(国とは違う市民の視点でG7に政策提言)は1.核兵器廃絶、2.気候と環境正義、3.公正な経済への移行、4.国際保健、5.人道支援と紛争、6.しなやかで開かれた社会、の各ワーキンググループがG7に向けた提言を準備し提出しました。G7は首脳会談後に「首脳宣言」を出しました。C7の「首脳宣言」にたいする評価は総体的に低評価で、代表の一人は市民と政府のズレを感じ、「何のためにG7サミットを行っているのか懸念を感じる」としていました。(詳しくは「C7市民社会コアリション2023」のHP)

C7に関わったグループが中心となって「みんなの市民サミット」が4月16日、17日に開かれました。核兵器廃絶や気候変動の問題、やジェンダー、多様性などのテーマで17分科会を開催。若者や女性グループの参加が多くありました。沖縄の基地問題に取り組む若者も参加していました。不戦ネットも賛同団



体となっているNANCiS主催(あどぼの学校、東海市民社会ネットワーク共催)で『ラリー』と『ロビイング』のあいだで ~市民社会とG7の関わりを問い直す~も開催されました。ラリー(集会・デモ)とロビイング(政策提言)に象徴される多様な市民の活動の連帯がテーマでした。「G7広島サミットを問う市民の集い」の代表も参加し、「お互いが非難しあうのではなく、得意なやりかたでやりましょう」との発言がされ、共感をよんでいたのが印象的でした。しなやかで、したたかな連帯をめざそうという「結論」になりました。

不戦へのネットワークは2016年伊勢志摩サミットでは「平和への権利」の提言書を作りG7に提出しました。また一方「サミットに異議あり」という市民集会、デモもおこないました。2019年G20外相会議では「朝鮮半島の平和プロセス」という内容の提言をおこない、外務省の朝鮮半島担当者と話合いの機会をもち、提言書を提出しました。私はG7や政府にものを言うためには、政策提言や話し合いもデモも両方必要という認識です。先に紹介した分科会ではないけれど、原則的であるけれども、しなやかな運動が必要かなと思います。

今回のサミットでは残念ながら独自での取り組みはできませんでした。これは大きな反省点です。

以上が広島サミットをめぐる市民の動きです(私の知る範囲内)。印象としてサミットはますます政治化しており、世界の分断を招いています。日本はG7と共に戦争をするのでしょうか？市民のなかでG7の意義がきびしく問いなおされる時ではないかと思っています。

「サミットを問う市民の会」や「C7」のとりくみについてはそれぞれのサイトで確認ください。サミットは閉会しましたが、サミットを通じて明らかになった課題は山積です。

G7 広島サミットを問う市民のつどい  
<https://www.jca.apc.org/no-g7-hiroshima/>

C7市民社会コアリション2023」のHP  
<https://g7-cso-coalition-japan-2023.mystrikingly.com/>